

# 読書館

## 「おれたちの故郷」

本と人



卓也は青森県内の高校バレー部のエースアタッカー。同じ学年の健司、奈津、ありさも帯広や岩見沢の農業高校へ進んだ。本作では、

佐川 光晴さん

「おれたちの故郷」は、坪田謙治文学賞(2010年度)を受賞した「おれのおばさん」のシリーズ第4作で、シリーズ第一部完結編。読後感の爽やかさが心に残る青春小説だ。



## 育った養護施設が存続危機に

彼らの「故郷」である鮎鱒舎の閉鎖問題が持ち上がる。恵子おばさんが施設を閉鎖しようとする決意は固い。だが存続させようと署名を集める陽介、おばさんのかたくなさに反発しバレー部を辞めようとする卓也。さらに1作目からの登場人物たちもそれぞれ、鮎鱒舎への熱い思いから行動する。

▼栗木京子著 現代女性 秀歌 単行本  
本紙の西日本読者選者を務める著者が7月9日に週一回、10才第1放送で話した修正・加筆した「泉」の母性の歌のエン「家族への愛と葛藤」構成。戦後から現代まで歌人の歌を引きつづき、点から論じている。  
(NHK出版・1600円)  
▼マイケル・ブー一家、ますます日本をフランス料理の修業する英国人フードライク食を求めて日本を縦断をつづった「英国一家食べる」の続編。東吉場を世界最大の水族館、野田のしょうゆ、ツオなど、ユーモアを食を語りながらも、は末期的と指摘するふ子記。  
(亜紀書房・1600円)

## 郷土の本



美味しい田舎のつくりかた

金丸弘美著

佐賀県唐津市出身の食環境ジャーナリストが、「そこ」にしかない「味と食を前面に打ち出した全国各地の地域おこしの取り組みをレポートする。

登場するのは、農業や漁業などの生産者が加工や販売にも携わる「6次産業化」のノウハウを伝授している「山際食彩工房」(福島県)、瀬戸内の気候を生かしたかんきつ類を原料に120種におよぶジャムを生産している「瀬戸内ジャムスガーデン」(山口県)、研修生を受け入れ、野菜作りから調理までできる「耕すシェフ」の育成を手がける「素材香房 ajikur

a(島根県)など。九州では漁師直売で人気の「道の駅むなかつ」(福岡県)が紹介されている。食による地域活性化を成功に導くポイントには少量多品種の生産物の提供、鮮度などが挙げられるが、最も大切なのは人と人の温かなコミュニケーションであることが実例を通してよく理解できる。  
(学芸出版社・1944円)

## 西日本新聞の本

出版部0902  
7-11(5)5033

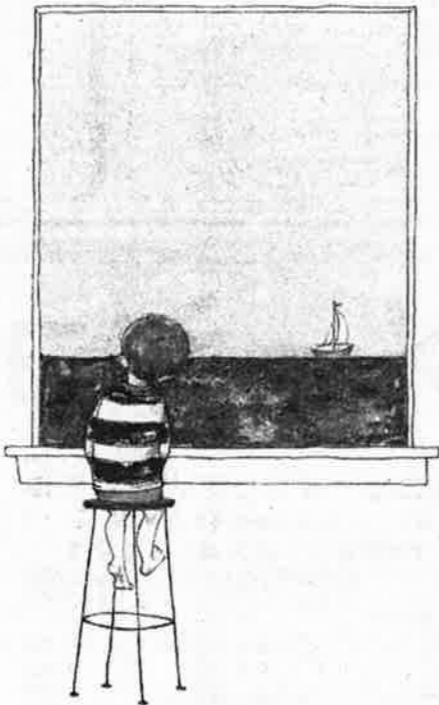


季刊のぼろー秋号

西日本新聞社編  
山登りに絶好な季節が到来九州密着の山歩き専門誌「季刊のぼろー秋号」の特集は、世界屈指のカルデラと大草原を誇る阿蘇山。人気の登

## クジラにあいたいときは

文 ジュリー・フォリアー  
絵 エリン・E・ステッド



山道からいにしへの生活道、お勤めの山々や、気軽に登れ噴火の跡に踏みしめられたる低山も紹介。アウトドアシ道、水源を訪ねるルートなどをひたすら歩き回り、阿蘇の魅力を徹底的に探してみた。もちろん、紅葉が楽しめる「山のQ&A」などの人気コーナーも充実している。今年の夏の長雨に泣かされたハイカーのみなさん、「ほろ秋号」をザックに入れて、秋山にのぼろー!  
(1000円)

クジラにあいたいときは まどが いる  
それと うみも

ある日、少年は窓の外を眺めながら、空想の翼を広げる。絵。

クジラに会うには、どうしたらいいだろう? まずは「あれ、クジラかな?」と考える時間がある。遠くをじっと見てちゃだめだし、海賊船が見えてもしょうがない。クジラじゃないから、雲を見ていてもだめ。上を見ていたらクジラを見そごなっちゃう。

優しい語りかけと淡い絵で、少年の空想に寄り添う絵本。昨年米国で刊行され評判になり、11カ国で翻訳されたそう。ニュー

## ベストセラー

- ①銀翼のイカロス 池井戸潤 (ダイヤモンド社) 1620円
- ②妖怪ウォッチ クイズ&パズル 妖怪ウォッチ製作委員会 監修 / あさだみほ イラスト (小学館) 864円
- ③妖怪ウォッチ ようかい だいずかん ともだち だいしゅうこう! 妖怪ウォッチ製作委員会 監修 (小学館) 864円
- ④おかげさまで生きる 矢作直樹 (幻冬舎) 1080円
- ⑤韓国人による沈韓論 シンシアリー (扶桑社) 821円
- ⑥知育ちがいさがし100 妖怪ウォッチ 妖怪ウォッチ製作委員会 監

ヨーク・タイムズ紙は「この静かな本は、子どもにとって白昼夢の楽しさを思い出させてくれる」と紹介したが、それは大人にとっても、かもしれない。  
(講談社・1512円)

▼バス・オールドリ、ジョン・トゥ・マイン 住大作戦 人類初のをしたアポロ11号の三士が、火星移住計画の課題と現状を語る。ついでに民間宇宙旅行なる活性化や、月活用が火星移住に欠かど、提言は具体的で、宙開発がこれほどまいるのかと驚かされる知世説。  
(エクスナレッジ・2000円)  
▼谷川俊太郎著「詩いうこと」 国民的詩の詩作と日常についてインタビュー番組の書生との出会いや言葉の意匠老いや死との関わりを



住大作戦 人類初のをしたアポロ11号の三士が、火星移住計画の課題と現状を語る。ついでに民間宇宙旅行なる活性化や、月活用が火星移住に欠かど、提言は具体的で、宙開発がこれほどまいるのかと驚かされる知世説。  
(エクスナレッジ・2000円)